

## 今月のテーマ ネットワークの力



# 田上市長の 恋とトコ

～自らの思いを皆さんに語るコラム～

4月の下旬から5月の初めにかけて訪米しました。5年に一度開かれる核不拡散条約(NPT)再検討会議に出席するためです。長崎からは総勢百名近くの皆さんがニューヨークに向かいました。

5年前の会議にも参加しましたが、その時よりも確実に強くなっていると感じたことがあります。それは長崎につながるネットワークの力です。

ニューヨークに「ヒバクシヤ・ストーリーズ」という活動があります。ロバート・クロンキストとキャサリン・サリバンの2人を中心に、高校生などの若者に被爆者の体験を伝えるボランティア活動をしています。彼らの活動はとても活発で、活動を開始した2008年からこれまでに、3万人ものアメリカの若者たちに、核兵器について考える機会を提供してきました。

今回は、高齢化で被爆者自身の訪米が最後かもしれないということもあり、被爆者たちが被爆体験を語る場をいくつも用意してくれました。そして、その一つとして、「広島・長崎に愛を込めて」と題するコン

サートを開いてくれました。

音楽と映像と言葉とを織り交ぜながら進むコンサートの進行役は、クリフトン・トルーマン・ダニエルさん。彼はトルーマン大統領の孫で、ヒバクシヤ・ストーリーズの活動にも参加してくれています。進行とともに、「核兵器をなくそう」のメッセージが会場に浸透していく中、最後を飾ったのは長崎から参加した被爆者歌う会「ひまわり」でした。



合唱で被爆地の想いを伝えました

「ひまわり」の皆さんにとっては、今回の訪米で最後の合唱です。気持ちがかもった、とても素晴らしい合唱でした。最後の地元の高校生たちとの合唱は、会場も一緒になつての大合唱へと広がっていき、とても感動的なフィナーレになりました。大変な苦勞をしてコンサートへの準備をしてくれた皆さんに本当に感謝です。

応援してくれたのはヒバクシヤ・ストーリーズだけではありません。NGO「ピースポー

ト」もそうです。ニューヨーク在住の長崎人、九州人を中心とする集まりのニューヨークばつてん会「の皆さんは、訪米の疲れを癒してくれる交流の時間をつくってくれました。5年前の訪米の後につくった「長崎平和特派員」という制度があるのですが、ニューヨーク在住の平和特派員の皆さんもいろいろな準備を待っていてくれました。続けて訪問したワシントンで多くの専門家の皆さんと話すことができたのも、仲介してくれた人がいたからです。

このほかにも本当に多くの皆さんの協力と参加がありました。彼らの力がなければ、米国での長崎の活動はもっと小さなものになっていたと思います。

一人の人の力は小さくても、つながれば大きな力になります。長崎だけの力は小さくても、ネットワークを広げること核兵器廃絶の力を大きくすることが出来ます。これからの身の丈に合った、そして長崎らしいあたたかいネットワークを世界に広げていこうと思いません。



出かけて  
見る・知る  
まちの  
オススメ  
スポット



もうひとつの出島  
唐人屋敷地区

築町電停で下車、湊公園と中華街の間の道を南東へ進むと、唐人屋敷象徴門(大門)が見える。鎖国時代、出島とともに海外交流の窓口となった、唐人屋敷地区の入り口である。

大門から少し行くと土神様をまつたお堂があり、向かって右の道を行くと、4月にオープンした十善寺地区まちづくり情報センターと、蔵の資料館に着く。ここで、唐人屋敷時代の歴史や生活、文化を学べる。

蔵の資料館の建物は、地区の地主であった森伊三次氏が明治期に建てた蔵を移築したもの。当時、森氏が堀に架けた石橋のうち、3基は今もその役割を担い続けている。

さるいていると、往時をしのばせる何かが見つかり、自然と思いを巡らす、そんな場所である。